コロナワクチン後に発症するヤコブ病

急がれる献血・血液製剤の安全確保

医学博士　長尾和宏

ワクチン接種後に発症したヤコブ病

最近、ワクチン接種後に「ヤコブ病」と確定診断された3人を診た。うち2人は接種後1～2ヵ月後に認知機能が急速に低下し数ヵ月後に寝たきりになり、言葉を失い食物も食べられないので経鼻栄養で生きている。極めて短期間にいわゆる植物状態に陥っている。

ヤコブ病は年間200人程度が診断されている希少難病で孤発例と遺伝病がある。筆者はコロナ禍になる以前、お1人、40代のヤコブ病の女性を在宅医療でお看取りした経験があるが、若年性認知症の急速進行型のような印象を受けた。

今回、ワクチンを接種して間もなく発症しヤコブ病と確定診断された3人は50～60代と比較的若い女性だ。どれくらいの人がワクチン接種後にヤコブ病になるか全く分かっていない。しかし100万人に1人しか発症しない希少難病が、ワクチン接種後にも発症することは看過できない事実だ。すでにお亡くなりになったワクチン接種後のヤコブ病の方もおられるので実態調査が急がれる。

ワクチンとヤコブ病の因果関係

どうしてワクチン接種後にヤコブ病になるのか。それは誰にも分からない。ただ、コロナウイルスのスパイクタンパクには、「プリオン様モチーフ」が5つ含まれており、スパイクタンパクがプリオンとして働く可能性が指摘されている。mRNAワクチンのスパイクタンパクにはアミノ酸配列の置き換えがあるのでより危険性があるかもしれない。

ファイザー社のワクチンには断片化したRNAも含まれているので、注射後に細胞で翻訳されると不完全なスパイクタンパク質が生成され、予測できない三次元構造の変化をもたらし、人体に悪影響を及ぼす特殊なタンパクとなる可能性がある。プリオンは微量の摂取でも長い時間の末に「プリオン病」を発症する事が知られており、将来的な不安要素になる可能性がある。

ワクチン認知症

コロナ後遺症のなかに認知機能低下する人がいることが知られている。コロナ感染は脳の老化を20年早める、とも言われている。一方、ワクチン後遺症における認知機能低下はそれよりも重篤で、ヤコブ病はワクチン後遺症の最重症型である。接種後、1ヵ月で認知症になり、2ヵ月で言葉を失い寝たきりになり、3ヵ月で食事もできなくなる。通常、65歳以下で発症する若年性認知症は高齢者の認知症よりも経過が早いが少なくとも年単位の経過がある。しかしヤコブ病に伴う認知症は月単位で進行するので桁違いに早い。

一般にヤコブ病と診断されると1～2年後に死に至る。ヤコブ病の治療法は、残念ながら何もない。筆者が直接お会いした2人はその時点では無治療であった。もうお1人は、栄養療法やサプリメント治療などを受けた結果、呼びかけに反応するなど良い反応が見られている。

ワクチンとヤコブ病発症の因果関係の研究はヤコブ病の病態や治療法の研究にヒントがあるかもしれない。またアルツハイマー型認知症の原因はいまだ不明であるが、ワクチン・ヤコブ病の研究で認知症の病態の本質に迫れるかもしれない。

輸血は大丈夫か？

今、「ワクチン・ヤコブ病」だけでなく、血液製剤の「輸血によるヤコブ病」が発症しないか全国有志医師の会は懸念している。狂牛病が流行ったとき、イギリスに滞在していた人は、その後献血ができなかったのを思い出して欲しい。

1980～1996年の間に英国に1日以上滞在された方からの献血見合わせ措置である。https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/kenke（厚労省のHP）。

たった1日の滞在で献血禁止となったのだ。

しかし今回はどうか。献血時にワクチン接種歴はチェックされないのと、献血された血液は輸血時にエイズや肝炎ウイルスと一緒にスパイク蛋白がチェックされていない。つまり、輸血によるヤコブ病が発生しないか強く危惧している。

全国有志医師の会からの嘆願書

そこで全国有志医師の会は以下の嘆願書を5月25日に、日本赤十字社、日本輸血・細胞治療学会、日本血液学会、日本赤十字看護学会、日本小児血液・がん学会、日本検査血液学会、厚労省に送付した。

（以下引用）……

核酸ワクチン接種者から供血された血液製剤の安全確保についての嘆願書

全国有志医師の会　代表　藤沢明徳

現在、新型コロナワクチンの臨床試験（第3相試験）は継続中であり、接種後長期の安全性データも得られていません。通常ならば治験の観察期間が終了するまでは献血できないはずが、mRNAワクチンもDNAワクチンも献血可能になっています。

新型コロナワクチン接種者の血液から作られた血液製剤に、ワクチン由来のスパイク蛋白、mRNA、脂質ナノ粒子（LNP）、ワクチンで産生される抗体が含まれており、受血者に健康被害を及ぼすことが危惧されます。

これらの成分は、量の多寡はあるものの全ての血液製剤に含まれます。中でも新鮮凍結血漿中に最も多く含まれていると考えられ、また、これら以外にもワクチン由来による未知の有害成分が含まれている可能性は排除できません。

つきましては、日本赤十字社で、献血血液中の、ワクチン由来のスパイク蛋白、mRNA、脂質ナノ粒子（LNP）、ワクチンで産生される抗体を調べ、安全な血液製剤を供給してくださいますよう、お願い申し上げます。

……（以上引用）

スパイク蛋白のチェック無しの輸血によるヤコブ病が発症しないか。つまり「薬害エイズ」の再発を懸念している。私達の不安が杞憂でないことを祈っている。

長尾和宏
（ながおかずひろ）

医療法人社団裕和会理事長、
長尾クリニック院長

1984年　東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局
1991年　医学博士（大阪大学）授与
1995年　兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業、現在に至る

日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会世話人、関西国際大学客員教授

［医学博士］
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

【著書】
『平穏死・10の条件』、『抗がん剤・10のやめどき』『糖尿病と膵臓がん』など多数。『痛くない死に方』と『痛い在宅医』は、映画化され、2021年春公開。『小説安楽死特区』も即重版し、アマゾン1位。最新作は「ひとりも、死なせへん」。

発行・株式会社財界通信社　令和4年7月1日発行　毎月1回1日発行　第55巻7号　昭和47年11月10日第三種郵便物認可

月刊 公論

2022 7

世界の視点で
情報を発信する
総合誌

日米同盟の強化は岸田政権の大きな成果
アジアにおけるさらなるリーダーシップの発揮を

提言 本誌主幹 **大中 吉一**

連載 政界展望 ジャーナリスト **鈴木 哲夫氏**

参院選の「争点」は果たして安全保障や経済対策なのか…

TOPインタビュー㉓ 株式会社ダイフク 代表取締役社長 **下代 博氏**

Hini Arata 日新　今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず　明日の「われ」は今日の「われ」にとどまるべからず

先人に学び、日本を哲学する 特別編 (株)人間と科学の研究所 所長 **飛岡 健氏**

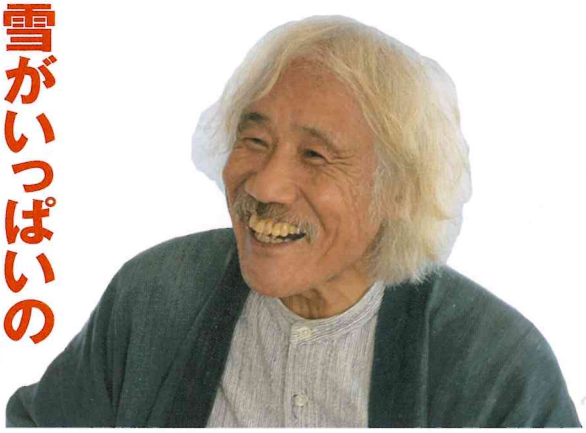
美しい国日本の建設の為に〝皆農制〟を!　～明日を担う若者を〝農業〟を通して育てる為に～④

リレー対談

建築家
株式会社隈研吾建築都市設計事務所
隈 研吾氏

越後 門出和紙
代表
小林 康生氏

雪がいっぱいの門出で漉く和紙だから意味がある



自然と寄り添う暮らしにこそ真の豊かさ